

2021年度年末手当等に関する申し入れ

申14号



第1回団体交渉

第1回交渉では、要求について趣旨説明を行い、満額回答を強く求めました！

JR東労組 私たちの要求の根拠！



- ・新型コロナウイルス感染症拡大から間もなく2年が経過するなか、**全組合員・社員が社会インフラとしての使命感を果たしてきた。**
- ・「命」を最大の価値基軸として安全を第一に、安定輸送と安心の提供、サービス品質の維持向上に向けて業務を遂行し、**変化に対応すべく各種施策についても向き合ってきている。**また、**激甚化する自然災害や異常時に対しても総力をあげて対応に徹してきた。**
- ・労働組合として組合員の雇用と利益を守るため、**健全な経営基盤を構築し業績回復に向け、創造的な取り組みを積み上げてきた。**
- ・JR東日本第2四半期決算は「過去2番目に低い営業収入・運輸収入」「2期連続で営業損失・経常損失・四半期純損失」という現実。しかし、単体では四半期純損失1203億円と発表されているが、**対前年765億円の増収！第2四半期時点での対前年鉄道運輸収入は、定期98.2%、定期外133.9%、計118%。****職場の努力によって昨年よりも鉄道収入は確実に回復している！**
- ・2021年度通期業績予想を下方修正し「下半期に限ると単体・連結ともに営業利益の黒字の可能性は十分にある」「今日から目標を下半期の黒字に切り替えていく」ことを明らかにした。しかし記者会見では「さらなるコストカット、社員の賞与削減の可能性もある」と話すなど、**下半期での組合員・社員の奮闘に期待をするならば、要求満額回答をし、組合員・社員のモチベーションとするべきだ！**

JR東日本 会社が示した現状認識

- ・コロナ感染防止対策に日々尽力、地震や変電所火災対応など社会的使命、変化の時期に果敢にチャレンジしていただいていることに感謝。
- ・**足元の10月を見ても緊急事態宣言解除後したが、前々年比定期外収入約70%であり、想定80%に届いていない。**
- ・**変革2027実現に向けた取り組みのレベルとスピードを上げていく。**
- ・**赤字で業績予想を下方修正した厳しい経営環境と直面する経営課題について認識の共有を図ることが議論の前提になる。**
- ・**支給水準は極めて慎重に、総合的に判断していく。**
- ・一部マスコミ報道については、コスト削減の一般論として述べたもの。年末手当について労使で真摯に議論した上で決定していく事には変わりはない。

生活実感や労働実感、職場で奮闘している苦勞など

「生の声」を集約し、本部交渉を支えよう！

そして職場からのたたかいで要求満額獲得を勝ち取ろう！